



定住外国人子ども奨学金 News Letter

第 13 期生の選考を終えて

新型コロナウイルスの猛威に加えて、休校・休業等がもたらす社会不安の中、大変厳しい日常が続いております。皆様無事にお過ごしでしょうか。

緊急事態宣言発令の 3 日前の 2020 年 4 月 5 日(日)午後、M 委員、E 委員及び私の 3 名で、第 13 期奨学生の面接試験を行いました。その結果、韓国(女子)、ヴェトナム(女子)およびブラジル(男子)にルーツをもつ高校生計 3 名を、奨学生として採用することに決定いたしました。

今回の志願者は計 11 名でしたが、まず、4 月 1 日(水)夕方、今回の志願者計 11 名に対する書類選考を行い、書類不備の者 2 名および、(あくまでも相対的にですが)奨学金交付の必要性が充分ではないと判断される 2 名、計 4 名の不採用を決定しました。

続いて 4 月 5 日(日)13:00 より、残る 7 名の面接試験を実施し、上記の 3 名の採用を決定しました。3 名とも目的意識が明確で、成績も良く、将来のロールモデルとしてとても期待できる人材であるという点で面接委員の意見が一致しました(3 名とも日本生まれです)。

他方、今回の志願者の中には来日して 2 年前後の者が 2 名おり、学力的にかなり厳しい様子でしたが、高校卒業まで学習意欲を維持できるかどうか危惧される部分もあり、結果として不採用にせざるを得ませんでした。合格者が日本生まれで占められることになった結果については、これを最善の選択と言えるのかどうか、迷いがないわけではありません。来年度以降、たとえば来日 5 年未満の志願者に採用枠 1 名を充てる等の試みを検討してみてもいいのではないかと思います。

また、今回はコロナウイルスが蔓延している状況であるため、面接受験者には当日体調が悪い場合は必ず申告するように指示しました。加えて、本人を含む家族の中に海外渡航歴 2 週間以内の人がいるかどうかを聞くべきか、非常に迷ったのですが、事務局を務めている KFC(神戸定住外国人支援センター)の他の部署における当時の基準に従い、こちらからは敢えて聞きませんでした。仮に自身の責任でない理由で面接に来られない志願者がいた場合、どう対応すべきだったか、大変難しい選択を迫られる状況であったと思います。

また、このような社会状況下における面接形式については、双方の環境が許すかぎり、対面式ではなく、スカイプ等を用いたオンライン型の形式が望ましかったのではないかと考えています。このことも今後の課題です(なお、緊急事態宣言発令後の 4 月 19 日(日)に予定していた新奨学生への奨学金授与式、面接、交流会等はすべて中止し、電話や郵送等の手段で手続きを進めたことも併せてご報告いたします)。

今後は世界的大不況が到来する可能性もさやかれており、定住外国人の生活維持に対するサポートがこれまで以上に必要になるだろうことは明らかです。今後とも当奨学金事業のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(実行委員長 樋口 大祐)

奨学生からのメッセージ

0 さん (13 期生)

1. 自己紹介

私はこの4月にN高校に入学しました。私の高校生活の始まりは、コロナウイルスによる世界情勢と共にスタートしたといっても過言ではありません。入学以来一度も学校に通う事ができない状況です。国のやり方や政治について思うところは多くありますが、不平不満を言うよりも、今私がやるべき事は「学ぶ事」だと思っています。私がN高校で最初に頂いた物の中に「開門章」という冊子があります。この冊子は、初代校長の教育理念が成文化されたものです。この中で私の心を最も震わせた文言は「軽い意味の志やただの希望というような事は「願」とは言えない。神を動かし、仏をも感じさせるような強い強い願いの事である」という文言です。私は高校生になったら、多くの友達と出会い、よく遊び、尚且つ勉強と部活動を両立させるという目標に胸を膨らませていましたが、これら全てを両立させる事は容易ではありません。私には「病理医」になるという夢があり、この夢を実現させる為には、いろんな事を犠牲にしなければならない時があると思います。でも、どうせ犠牲にするのなら徹底的に犠牲を払い、「これは犠牲ではなかった」と思えるだけの結果を出したいです。これからの世の中は、コロナウイルスの影響であらゆる常識が覆されていく事になり、今までの様な価値観や概念は通用しなくなります。日本以外の多くの国ではオンライン診療や学校のオンライン授業はずいぶん前から普及しています。働き方や社会システム自体が大きく変動せざるを得ない中、日本がどう動くのかも不安です。これからの時代を生き抜く私たちの世代こそ、思索をめぐらし、自分の頭でしっかり考え、根拠をもって考え抜く力が必要になっていくでしょう。だからこそ私は、「マニュアル化された決まった枠組みの知識を覚えるだけの勉強」をするのではなく、知識を得て、「その知識をどれだけ考え抜いたのか」を重要視し、自ら思考し想像する学びをしたいです。私の高校生活3年間は私のこの情熱に注ぎ込む3年間にしてみせます。

2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

私は高校生活において部活ではダンス部に入り、社会活動においては、子どもたちの学習支援、勉強においては学年で一番の成績を取り続けることを目標とし、必ず実現させます。もちろん多くの友達を作り、できる限りの環境に身をおき、自分の考え、思想を持つべき大切な3年間でもあります。限りある貴重な3年間で「何かを言い訳にする事なく」、自分の目標に立ち向かいます。

3. 将来の夢

私は将来、病理医になります。はるか遠くにあるこの目標は、いかなる努力をしても必ず掴み取ります。私にはもう一つ夢があります。それは、病理医をしながら、あらゆる理不尽な状況の中、学びたくても学べない子どもたちに無料で学習支援をしていく事です。私が最も伝えたい事は、「学ぶ事の重要性」よりも「何かを言い訳にして、学ぶチャンスを捨てないでほしい」という事です。

学ぶ事は楽しい事ばかりではありません。私自信、中学3年間は勉強をしながら、苦しくて叫びながら、時には、涙を流しながら、泥くさく、学び続けました。多くの人が勉強で苦しい時、逃げたり、挫折したりするのは、「学ぶ事は考える事」であり、最もしんどい行為だからです。でもそこで諦めないでほしいのです。どの様な形で「なぜ学ばなければいけないのか」を子どもたちに伝えられるかは、私にとっての課題ですが、まずボランティアの学習支援で多くの子どもたちに寄り添っていきたいです。

D さん (13 期生)**1. 自己紹介**

私がルーツを持っている国はベトナムです。私は日本で生まれ育ちましたが、母と祖父母は元々ベトナムに住んでいました。ですが、ベトナム戦争がきっかけでベトナムにはいられなくなり、治安が良いと言われている日本に引っ越しました。日本には知り合いもいなくて日本語も話せないことから、職を見つけることも難しい状況でした。私の家は母子家庭です。母一人で祖父母と私を支えるのは厳しいと思い、この奨学金に応募させていただきました。私は奨学生として寄付者や関係者の方々に応援されるような人でありたいと思います。そしてこの奨学金を活用して今まで以上に熱心に勉強に励んでいきたいと考えています。私は中学1年生の頃、勉強が苦手な遊びばかりでしたが、2年生になり、目標の高校が決まってからは自分と向き合い、勉強する習慣が身につくようになりました。これからも続けて努力していきたいです。

中学校では風紀委員として活動していました。風紀委員は人前に立つことが多くありました。初めは苦手でしたが今では堂々と話せるようになり、それが自信につながりました。この経験を生かし、今後も誰かのために手助けできるような活動もしていきたいと考えています。

2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

私は保育士になるという夢をかなえるためにコミュニケーション力を高めていきたいと考えています。高校生活ではたくさんの人と接する機会を作りたいです。また新しい事にもチャレンジしていきたいと考えています。これからの時代、英語を中心とする語学力が大切になってきます。だから私は英語を熱心に学び、日本人だけでなく、海外の人とも交流するチャンスを広げていきたいです。

3. 将来の夢

私の将来の夢は保育士になることです。そのためには保育関係が充実している高校でしっかりと保育士に必要なことや習得すべきものを身につけていきたいと思います。今、私が将来について考えていることは、英語を中心とする語学を身に付けていきたいと考えています。私の夢である保育士はたくさんの方の保護者や子どもたちと関わる仕事です。その中で最近では外国籍の人が増えてきています。私の母もベトナム人で日本語があまり分らないです。母のように困っている人もたくさんいると思います。だから私は語学を身につけて日本語に困っている人の力になりたいと思います。

M さん (13 期生)**1. 自己紹介**

こんにちは。僕の名前はマチアス慈英悟です。

僕のお父さんは日系ブラジル人3世で、お母さんが日本人です。僕のひいおじいちゃんは熊本県出身の日本人で、18歳の時に船で移民しました。そして偶然なことに僕のお父さんも18歳の時に出稼ぎのために日本に来ました。

ちなみにブラジルの人口は世界で5番目に多い約2.095億人で、日系人はそのうちの0.6%で約190万人います。

僕は13歳の時、家族でブラジルに行きました。そこで僕はブラジルの広大さに驚きました。その一つは道

路に地平線が見えたことでした。地平線が曲がっていたので、やっぱり地球は丸いんだなと感じました。

僕の趣味は音楽です。僕が音楽に興味を持ったのは、小学生のころにいじめられて悲しい気持ちになって帰ってきたときに、お母さんが聴いていた曲に勇気づけられたことがきっかけで、とても音楽に興味を持つようになりました。そこから洋楽から昭和の歌謡曲まで様々な音楽を聴いて作曲を開始。中学生時代にはレベルアップのために、吹奏楽部に入部しました。それから音楽配信サイトに自分で作った曲を載せていって、コメントがたくさん増えていき、今ではいろいろなイベントに呼ばれるようになりました。もし、機会があれば、ボランティア活動でも、自分の力を発揮してみたいと思います。

2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

僕の小学生時代は名字がカタカナということもあって、「外人だ」といじめられることもありました。中学校は国際学校なので、そう言ったいじめは無くなりましたが、友達に気に障るようなことを言われると、学校に向かう足を止めてしまうこともありました。でも中学3年生の時の担任の先生は僕に自分自身を見つめなおすように叱ってくれ、励ましてくれました。そこで、僕は自分に都合の良いように理由をつけて、甘えていたなど気がきました。

なので、これからは自分に甘えずに考える前に行動し、自分のためだけでなく、生まれた時から支えてくれている両親、そして僕のことを信じて励まし続けてくれた担任の先生への恩返しのためにも、勉学にも励みたいと思います。

3. 将来の夢

僕が将来つきたい職業は臨床心理士です。臨床心理士とは、心に問題を抱えている人に寄り添う心理カウンセラーの事を言います。

なぜその職業につきたいのかといいますと、僕の父がブラジルから日本語がわからないまま日本に来て、日本語で気持ちを十分伝えられないことでストレスが溜まったり、そのストレスのせいで仕事を転職しがちになってしまっています。こういった人は父以外にもいっぱいいるはずだと思うからです。そういったストレスを抱えた人たちの力になりたいと思い、僕は、臨床心理士になる夢を持っています。

S さん (12 期生)

「コロナウイルスについて」

一月二十六日に中国で旧正月がありました。その時武漢ではコロナウイルスが出始めていました。コロナウイルスは新型で、一日に何人もの人に感染していきました。武漢の住民だけでなく病院の人たちもすぐ困りました。

お年寄りや病気の人は重症になりやすいと言われていますが、病院から退院した後に、再び陽性だと言われたり、この病気はわからないことがたくさんあるそうです。

中国で感染が広がり、日本でも広がり続けています。今では世界中、地球上に広がりました。感染が広がらないように、ひとりひとりが気を付けることが大切です。

まず、手洗いです。外出先から帰ったら、必ずきちんと洗うようにしています。出かける時は必ずマスクをして、人が多く集まる場所へは行かないようにしています。不便に感じることも多いですが、続けていきます。

少し残念なことがおこっています。マスクやトイレットペーパーの不足です。マスクは病院でも足りなくなっています。これは本当に困ったことだと思います。トイレットペーパーは不足することはないと政府が言っても、買

い占める人がいるようです。こういった行為は絶対にやめてほしいです。

三月二日～三月十五日までは、全国の小学校、中学校、高校も休みとなりました。自分は、元々は三月二日には、1年生最後の期末テストの最終日だったので、それを受けてなかったです。テストがなくなってラッキーだと思ってしまいました。

今、兵庫県では百人以上の感染者がでています。そして増え続けています。三連休では大阪への往来自粛のよびかけもありました。兵庫県に住んでいて、ほんとうに怖いです。感染防止の行動を続けていくとともに、買い占めをするような非常識な行動をつつしみ、地域の人々と助けあって、この大変な状況をのりこえたいと思います。

N さん (12 期生)

「親の母国語が話せない」

私は自分の親の出身国の母国語が話せません。私の親はブラジル出身で、ポルトガル語を話します。私は日本で生まれ、日本語で育ちました。ポルトガル語は親や親戚が話していましたが、私にとって馴染み深かったのは日本語でした。ポルトガル語が話せるのは、本当に少しだけで、聞いて理解できるのも、少しだけです。話すと、おかしくなり、聞くと意味が理解できない部分が多々ある。そんな私は何度も、「ポルトガル語が話せたら、どんなに良いだろう」と思いました。ポルトガル語が話せたら、親とも楽に会話ができるし、話もちゃんと理解できる。でも話す事が出来ないことは事実で、辛いです。私は何度も、「生まれた時からポルトガル語を話せたら良かったのに、日本語は後で話せたら良かったのに」、と思いました。ですが、ポルトガル語だけしか話せないのは大変だと思いました。何故なら私達家族が住んでいるのは日本です。日本語を話せないと本当に不便だからです。日本語が話せて、良かったなと思った部分でした。

ただ、問題として国籍が絡んできます。私は外国籍なので書類を書く時や、その他色々国籍が関わって来て、正直に言うのと面倒だと思いました。外国籍は大変ですが、国際的で、素晴らしいことだと思います。日本に外国の方はたくさんおりますが、まだ受け入れる事が出来ない方が多くいると思います。ですが、日本と外国とのルーツがある人が増えたら、受け入れてくれる人が増えて、そうなったらいいな、と思います。そして日本語がしゃべれて良かった事のもう一つは、日本語を理解できない親に説明ができるからです。日本語を理解できない親に対して、私はストレスを感じていましたが、仕方無い事だと思いました。私も親の母国語のポルトガル語が話せないので、お互い様だと思いました。お互いに話せない言語があるのは大変ですが、助け合いたいです。

R さん (12 期生)

「楽しい冬休みといつもと違う春節」

冬休みはちょうど中国の春節です。中国で一番重要な祝日です。必ず家族と一緒に過ごします。春節のために、いろいろな準備をしなければなりません。食べ物と飲み物をいっぱい買いました。大みそかの前日は家族と一緒に餃子を作ったり、お酒を飲んだり、テレビ番組を見たり、新年を迎えたり。うれしかったです。それは一年中で珍しい時期です。みんなは楽しく集まって。でも、もっともうれしいことは大人たちにあいさつをしたら、お年玉をもらえました。今度の春節で私はいっぱいもらいました。

でも、ことしの新年は普通の新年と違い、大変なことが出てきました。それは新型コロナウイルス。私たちが新年を祝っている頃、お医者さんはこの病気に立ち向かっていました。彼らは困難を恐れない、彼らはそれ

それぞれの省から来た有志で、ウイルスに立ち向かう人達です。83歳の鍾南山先生は、ウイルスの危険を避けて老後を安らかに過ごすこともできましたが、彼は人々が一番必要としている時に立ち上がりました。十七年前に SARS ウイルスが広がった時と同じです。十七年前彼ははっきり言いました。「病人を全部私のところに送ってください」このきっぱりした言葉は、世界中を驚かせました。十七年来、この医師の人々に奉仕する心は、終始変わらず、人々の安全のために病気に立ち向かう志は、終始不変です。

たくさんの医者と看護師がいます。一般の人が春節の楽しい食事をして、家族全員と楽しい時間を過ごしている時、彼らは家族から離れて武漢の戦場のような病院に赴きます。これらの高い志のある人々は病院という戦地で人々の安全のために戦います。

自然を恐れ、命を守る医者と看護師、彼らは命への執着とそれを守り抜くことを「献身」と解釈しています。私たちは心から彼らに敬意を表します。私たちはみんなで力を合わせて感染拡大を止める城壁をつくりましょう。この硝煙のない戦争に打ち勝ちましょう。彼らが早く帰って一家団らんし、一緒に楽しいパーティーを行けるようにしましょう。

それは私の楽しい冬休みといつもと違う春節です。また来年の春節に期待します。皆さんもウイルスに注意してください。

A さん (11 期生)

「8 年越しの花嫁」

私は最近「8 年越しの花嫁」を読んでみた。これが発行されたのは、2015 年 7 月 31 日だ。前からすごく気になっていた作品だ。2 年後に映画が上映されると知って見たかったけど見られなかった。これをきっかけに本屋で探して読んでみたけど予想していたストーリーと違った。これを読む前は麻衣が目覚めるのを尚志がずっと待ってハッピーエンドだと思ったが、そんな簡単ではなかった。8 年経っても麻衣への気持ちが変わらなかった尚志は素敵な男性だと思った。

私は普段なら没頭して本を読めない人ですが、これはストーリーに入り込んだ気になった。もし、私が尚志だったら 8 年も待てない。何気ない日々に突然病に襲われてショックだっただろう。麻衣の両親には「家族じゃないからもう来なくていい。新しい人を見つけて」とも言われた。目覚めるのかもわからない状態だったのに。でも尚志は諦めなかった。尚志のただ待って、信じる、という行動は奇跡を生み出したのかもしれない。二人の間に強い絆が有って、麻衣は目覚めたのかもしれない。私はそう思った。

尚志の忍耐強さと愛情の深さに惹かれた。二人はたくさんの苦しみを味わったと思う。でもその苦しみによって二人の絆はより強くなった気がした。

これは尚志の先輩と同僚と女の子 3 人で合コンした場面だ。尚志が失礼な態度を取ってしまって面と向かって麻衣が尚志に怒ったのが印象に残った。面と向かって言ったおかげで二人は仲良くなった。

時には勇気を出して、相手に伝えるのは大切なことだと改めて思った。これは実話をもとにした小説だからこそ勇気づけられた。それだけではなく、心が動かされた話だった。

これを読んで本当に奇跡はあるものだと気付いた。本当に素晴らしいストーリーだった。

U さん (11 期生)

「新型コロナウイルスについて」

最近、新型コロナウイルスが問題となっている。

今現在発生しているマスクの転売が問題となり、新たな法律ができるほど酷く自分自身も人間の欲というものは恐ろしいものだと思った。

その中でも、中国武漢の方々がマスクを日本に配っているのをインターネットニュースで見て心が温まった。そんな人達が増えることによって政府が求めている世界平和に繋がるのではないかと思う。新型コロナウイルスによって命を失ったことばかりをニュースに大きく取り上げることによって、新型コロナウイルス患者を精神的に追いつめ、こういった事件が起こったのではないかと私は考えています。先ほどにも書いたように中国の事やアタランタのサポーターが行った行動など心温まるニュースを大きく取り上げることによって、人の心は影響を受け変わっていくのではないかと考えている。

新型コロナウイルスはこれだけで終わるわけでもなく、新型コロナウイルスによって各地で卒業式が中止になったり休校になったりした。人生で一度しかない大きな行事が無くなるということはとても辛いと思う。実際に卒業式がなくなった先輩方の話を聞くと最後の思い出が潰れてとても残念と言っていた。聞いていた私まで心が痛かった。新型コロナウイルスが一度おさまったら中止にするのではなく、どこかで時間を設けて式をあげるべきだと思った。

自分自身は休校になり嬉しい反面、学校は単に勉強する以外に食事の提供や避難場所、保育などいろいろな役割を持つ地域のインフラだということに気づかされた。そして大好きな友達に会えないことが一番辛いことだと思った。

ですが、休校といった形をとったことは正解だと思う。自宅近くの保育園の方たちが感染したのを知り、新型コロナウイルスの患者がとても気の毒な思いをしていると感じる。そんな人達を増やさないためにも、この休校策は大きな役割を果たしているなと思った。

色々な出来事がある中で最も印象に残っているニュースは愛知県で起こった事件です。「今から駅前でコロナウイルスをばらまく」と言って外出した男性は、新型コロナウイルス患者は先ほど書いたように肩身の狭い思いで生きていけないといけなくて、こんな行動をしてしまったのではないかと思います。この事件を受け、薬をより早く開発するべきだと思うし、尚且つ新型コロナウイルス患者の精神面的なサポートも考えていくべきだと思った。

Tさん (11 期生)

「老後資金 2000 万円問題から考える」

「老後資金 2000 万円問題」を耳にされる方も多いのではないのでしょうか。「老後生活が 20~30 年続くとすると、公的年金以外の老後資金として 1300~2000 万円不足する」と金融庁公表の報告書に記載されていたことがニュースで大々的に取り上げられました。

老後資金とは、老後がいつを指すかは人によってさまざまですが、経済的には、公的年金や預貯金などを生活資金として使い始める時期を指すことが多いようです。「老後」と呼ばれる期間は長く、これだけの期間にゆとりある老後生活を送るためには、定年退職後から支給される公的年金だけではならず、快適な老後生活を送るためにも、老後資金は不可欠になると思います。加速する少子高齢化により、年金を支える現役世代が減少し、将来は年金支給額が減少するであろうと思います。

学校やオープンキャンパスの講師の方に必ずと言っていいほど話題にされることがあります。それは「70 歳まで働く社会」です。「あなたたちは最低でも 70 歳までは働くことになる。」そう言われました。

私を含む周りの子たちは(何言ってるの。嘘でしょ。)とざわざわしていたのを覚えています。話の最後には、AIの話が出てきました。資料整理や文字入力、機械類操作などといった単純作業に関しては、人間よりAIが実施したほうが生産性が高い分野です。近い将来、それらの仕事は人間の仕事ではなくなっていく可能性が

あります。

AIに奪われるといわれている職業に就いている場合は、キャリアチェンジや新しいことにチャレンジしていくなどの対策が必要になると思います。

私たち学生も将来就きたいと考える職業が AI に代替される仕事かどうか把握しておく必要があります。また、70 歳まで働くことができるのか、深く考えることが必要だと思います。

K さん (10 期生)

1. 高校を卒業して

高一は部活動で文化祭の舞台劇に参加しました。日本人の友達ができたし、体育大会はすごく楽しかったです。

高二から部活動をやめて、自分が好きなことを勉強しました。一年の間で NI (日本語能力試験 I 級) に通りました。そして自分の志望校を見つけました。

高三は受験で精一杯でした。夏休みは東京に行って、志望校の見学に参加しました。学校生活の方は文化祭でクラスは焼きそばを鉄板で作り、100 円一人前で売りました。体育大会も学年は一体になって、楽しみました。受験のほうはセンター利用試験で出願した学校全部合格しました。センター試験は、中国語を利用して 191 点を取りました。順位のほうが全国一位でした。日本史 B は最高点 90 点を取りました。東京の志望校は受かったが、親の反対で実際行きませんでした。今年の 4 月から京都産業大学の文化学部に入学的予定です。

2. 今後の進路について

K 大学の文化学部に進学しました。

この大学で世界と日本の文化財について勉強し、卒業後は通訳ガイドに就職する予定です。大学一年生の間は学生寮に入り、中国語通訳案内士試験を受けて、大学二年生からは通訳関係のバイトをしながら勉強する予定です。

3. 後輩へのメッセージ

受験はこわくない! 目標をもって勉強すれば受かる! 今の学校生活を大事にして、学校に行き、つらいこともあるだろうけど高校の三年間は本当に、人生で一番楽しい時間だった。どこかの大学に興味を持っていたら、実際に行き見学するほうがいい! そして大学の間で一人暮らすことも別の経験を得る。とにかく、今の学校生活を大切にしてください。

N さん (10 期生)

1. 高校を卒業して

一年生のときは入学したてで学校のこともよくわからず、僕はただとにかく友達をつくらうと必死でした。気さくに話しかけてみようとしたり、他の人の会話に混ざろうとしたりしましたが、僕は人と接するのが得意ではなく、空回りしてばかりでした。しばらくすると自然に友達ができました。今思えば、新しい環境に慣れず、力が入りすぎていたのだと感じました。大学に入ったときは、こうならないようにしたいです。

二年生のときに印象に残ったのは、修学旅行です。初めて行った北海道、プラン通りに行かない自由行動、味の濃かったミソラーメン、耳のちぎれそうなほど寒かった雪と風のなかのスキー、そして小学校以来のインフ

ルエンザ。色々な人に迷惑をかけてしまいましたが、とても楽しかったです。

三年生の時期は、様々なことに挑戦した時期でした。受験もちろんそうですが、僕が個人的に印象に残っていると感じたのは文化祭です。それまで、一年生は特に何もせず、二年生も何もなかった僕が、演劇で舞台上がって演技をしたのです。意外と上手く行って、とてもうれしかったのを今でも昨日のように覚えています。

そういったことも、支えてくださった先生方がいてくれたからこそだと思います。特に、二年生から、受験の最後の最後までサポートしてくださった担任の先生には感謝してもきれません。大変なことも嫌なこともありましたが、本当に楽しい高校生活でした。

2. 今後の進路について

私立大学の R 大学に進みました。これからは、バイトや友達作りに注力しつつ、経営学科にて勉強していきます。

3. 後輩へのメッセージ

日本語が上手な人も、あまり上手くない人もいますが、どうにか人と話せるくらいには日本語を身につけておいてください。何故僕が、これが一番大切だと思ったかといいますと、高校生にもなると、様々な場面で「自己責任」を求められる場面があるからです。例えばテストの課題といった日常的なものから、奨学金についてなどの大きな物事についても、その場その場で自分が話を聞いて行動しなければならないことがあるからです。

それともう一つ、時間の管理を上手く行うようにしてください。受験における最も重要なことのひとつだと思います。人間、突然「勉強しよう」と思っても大抵うまくいかないのです。ですから、この習慣をつけることで、一日十時間勉強というパッと見狂気の沙汰にも感じる事をこなすことができるのです。これは早ければ早いほどいいです。受験が終わった後も人生の助けになるはずですよ! 善は急げ!

V さん (10 期生)

1. 高校を卒業して

F 高校で過ごした三年間は私にとってかけがえのない宝物です。入学時に高校のことを何も知らなかった私はたくさんの想いを抱いていました。不安な気持ちもありましたが、楽しみという気持ちの方が強かったです。当時、私の日本語は、まだ下手でしたが、国際科のみんなが優しく受け入れてくれて、たくさんの友だちが出来ました。そして入学して間もなく、少林寺拳法に一目惚れし入部しました。私の高校3年間の全部を少林寺拳法で語れるくらい部活の存在は大きかったです。部活で出会った個性が強すぎる仲間と毎日汗をかき、とても厳しいトレーニングをしました。辛いこともありましたが、思い出してみると浮かんでくるのはみんなの素敵な笑顔でした。このメンバーと一緒に頑張ったのでたくさんの大会で優勝することができました。部活を引退した直後に始まったのは受験勉強でした。新しい戦いでまた新しい仲間が出来ました。回りの人の進路が段々決まっていく中で、焦りや不安がたくさんありました。しかし、一度もあきらめようと思わなかったです。それは一緒に最後まで頑張ってくれる仲間と支え続けてくれた家族と先生がいたからです。

F 高校での思い出は他にもたくさんあります。文化祭や体育祭の楽しすぎた準備、しんどくて窒息するんじゃないかと思ったマラソン、驚くほど素晴らしかった修学旅行、そしておもしろすぎる普段の授業です。全てがとても良い記憶で、書き切れないほどです。

F 高校に入学して、良い人ばかりと出会えた私は世界一幸せものです。今まで支え続けて応援し続けてくれた親、先生、友達、そして他のたくさんの方々に本当に感謝しています。この気持ちを持って大学でも頑張りたいと思います。

2. 今後の進路について

高校を無事に卒業することができ、大学に進学することになりました。私の中にはやりたいことがたくさんあります。“スペイン語を学びたい”“アメリカに行きたい”、“地球の環境を良くしたい”、などなどのとても単純なことばかりですが、一つもまだできていません。また、私は自分が好きな職業が分かりません。だから、大学生になった私は大学でしっかり学び、自分がやりたいことを一つ一つやっていくうちに、自分の夢を見つけていきたいと思います。

3. 後輩へのメッセージ

私は英語が大好きなので、暇な時に英語の名言を読むのが趣味です。私が読んだ名言の中で、すごく印象に残ったのは：“YOLO—YOU ONLY LIVE ONCE—”という言葉。直訳すると「人生は一度だけ」となります。少し言い換えると「今生きる」となります

未来のことを誰にも分かりません。ですから今を思いきって生きるのです。自分がやりたいことだけをやるのです。私はこの言葉が好きでしたが、この言葉通りに過ごすことができなかったです。自分が嫌なことばかりを先にやって気づいたら時間がなくなったり、別に自分がやりたいわけでもないけど友達がやってるから一緒にやったり、逆に回りの目を気になったから自分が好きなことができなかったりしました。今になってすごく後悔しています。みんなにはそのようになってほしくないです。自分の本当の姿になって一度しかない人生を楽しんでください。応援しています！